

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.87

2013.12.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.87 目次

| | |
|--|-------|
| 「アフリカの野生動物保護・獣医学勉強会～神戸俊平獣医師がこの40年余を振り返って～」開催報告 | 2-4 |
| ウトウの幼鳥の救護事例 | 5-7 |
| 施設紹介ーウトナイ湖野生鳥獣保護センター | 8-9 |
| ＜野生動物リハビリテーター養成講習会（東京会場）募集要項＞ | 10 |
| 冬は野鳥観察の季節 | 11 |
| 寄付のお礼 | 11 |
| 事務局日誌 | 11-12 |

「アフリカの野生動物保護・獣医学勉強会」開催報告

～神戸俊平獣医師がこの40年余を振り返って～

WRV事務局 箕輪多津男

去る10月20日(日)、アフリカで40年以上に渡って野生動物の救護や保全活動に活躍してこられた神戸俊平先生をお迎えして、標記の勉強会が開催されました。

今回は特定の団体が主導するというのではなく、敢えて「発起人会」を設け、そこが主催するという形で開催する運びとなりました。WRVもこれに協力することとなりましたので、会員の方々にはチラシやホームページを通じて、ご案内をさせていただいた次第です。

なお、発起人会のメンバーは以下の通りです(五十音順)。

- ・荻野康子(会社獣医師)
- ・金坂 裕(金坂動物病院 院長)
- ・新妻勲夫(WRV 会長)
- ・村井英紀(ぴか動物病院 代表)
- ・梶ヶ谷博(日本獣医生命科学大学 教授)
- ・小松泰史(新ゆりがおか動物病院 院長)
- ・箕輪多津男(WRV 事務局)
- ・森田正治(森田動物病院 院長) / 発起人代表

会場として、発起人代表である森田正治先生が兼ねてから講師を務めておられる中央動物専門学校の一室をお借りすることとなり、また「アフリカと神戸俊平友の会」の協力を得ながら、当日までの準備を進めさせていただきました。

開催当日は生憎の雨天となりましたが、それにもかかわらず20名を超える方々の参加をいただき、無事に開会に漕ぎつけることができました。

当日はまず、会場となりました中央動物専門学校の坂本 敏校長先生より歓迎のご挨拶を頂戴し、続いて森田正治先生より、発起人代表としてのご挨拶および開催趣旨の説明をいただきました。同時に、神戸俊平先生のご紹介をいただき、すぐに本題である講演へと進みました。



坂本 敏校長先生のご挨拶



森田正治先生・発起人代表挨拶

神戸先生自ら、簡単な自己紹介をいただいた後、さっそく具体的な内容へと話を進めていただきましたが、冒頭から、現在のアフリカの野生動物の保全に関して最も大きな問題となっている密猟の現状についてお話しいただきました。



神戸俊平先生



象牙の密猟に関する解説



密猟用のくくり罠

まず、アフリカゾウの象牙を目的とする密猟の惨状についてご紹介いただきましたが、現在では特に中国の業者がこれを裏で大量に取引しており、その需要がある限りなかなか現地の密猟者も無くならないということでした。また、ワシントン条約に加盟していない台湾や密輸の中継地としての東南アジア等へ象牙が流出しているようです。ただし、十数年前までは、残念ながら日本の業者が取引の中心となっていた模様で、この問題はなかなか一筋縄ではいかないようです。また、密猟のかどで逮捕された場合においても、その罰金額がかなり少なくて済んでしまうため、結局現地の密猟者は足を洗う事なく、何度も違法行為を繰り返してしまうとのことでした。ゾウの密猟は象牙のみが目的なため、後にはその大きな遺体が放置され、現場は余計に悲惨な印象を与えるようです。

密猟に関しては、この他、サイの角(漢方薬等)を目的とするものや、サバルキャットやシマウマ等の毛皮を目的とするもの、さらにはロシアから来たレアメタルの採掘業者によるマウンテンゴリラの捕殺等もご紹介いただき、問題の根深さを改めて痛感させられました。また、密猟の方法にも、罠や毒矢によるもの、さらには水辺に毒薬等を散布して獲物をあさる方法など、様々なタイプがあるようで、心を痛めるような場面もいくつか披露されました。ただ、もともと狩猟民であった人々は、日常的に食を目的として野生獣等を求めていたという歴史的経緯もあるため、ワシントン条約締結の時点からそれをすべて禁止しても、なかなか慣習を変えられないこともあり、そうした別の側面からの課題も横たわっているようです。

次に、具体的な傷病動物の救護に話を進めていただきました。特にケニアではケニア野生生物公社(KWS)の野生動物診療施設や動物孤児院を中心に、傷病野生動物の収容、救護、治療活動を展開しているとのことでしたが、保護されてくる動物たちの様子を地域の人々に見てもらうことにより、その保全活動の重要性に気付いてもらう、つまり自然保護教育や環境教育の場としての機能も重要であるとの説明がありました。また、ゾウのケアに関しては、例えば牛乳を与えてしまうと腸捻転を起こして死亡してしまうことが多いので、代わりにココナツヤシ油に栄養粉を加えたものを与えるとか、また抗生物質による治療の際には、牛に与える30倍程度の量を投与するなどのお話もいただきました。さらに移動においてはクレーンを使ってケージを持ち上げ、トレーラーに乗せて移送します。その際、エトルフィンにより麻酔をかけた後、トレーラー上で薬剤により覚醒させ、立たせた状態で運ぶとのことで、覚醒するまでの約3分の間に、担当獣医師はケージの外へ速やかに出ないと圧死の危険もあるとのことでした。



KWS・動物孤児院にて



家畜診療の様子



家畜への予防接種

一方、マサイの人々は牧畜を生業としていることも多く、多くの牛を飼っている関係で、それらのケアも日常的に求められているとのことでした。特に日本でも時折問題となっている口蹄疫が、やはり最も懸念される疾病で、そのワクチンの予防接種を、特定の柵場(丸太を組んだ簡易檻)に順次誘導して連続投与する様子も紹介されました。また、東海岸熱の病原体であるタイレリア・バルバ(原虫)を媒介するダニを予防するため、薬剤噴霧も実施されているようでした。

最後に、家畜や野生動物と人間に共通する病気、つまり人獣共通感染症について言及していただきました。感染症が蔓延してしまう一つの要因として、衛生状態の悪い中で家畜のミルクや慣習から牛の生血を飲む行為、あるいは野外の池や水溜り等で生水をする行為等が挙げられました。消化器や皮膚等から病原体が侵入し、様々な感染症を引起してしまうようです。

また、昆虫やダニ等によって媒介される感染症についても解説していただきました。中で最も典型的な感染症として、蚊が媒介する原虫の感染によって引起されるマラリアが挙げられました。

マラリアは元々霊長類の間に、相当数の種(20種以上)が確認されているため、今後も新たなタイプの症例が発生する可能性があり、注意を要するとのことでした。神戸先生ご自身も感染経験があり、一時期は大変な思いをされたようです。その他、ツェツェバエの媒介する原虫トリパノソーマによって発症する眠り病(アフリカ睡眠病)、サシチョウバエの媒介する原虫によって発症するリーシュマニア症、さらに日本でもかつて猛威を奮った狂犬病や住血吸虫症、土壌に生息する細菌が皮膚の傷や呼吸器から感染して発症する炭疽症など、様々な感染症が現在でも流行を続けているアフリカの現状について語っていただきました。エイズ等も含め、こうした感染症の状況を考えると、アフリカ大陸の窮状が想像以上のものであることが窺える次第です。

なお、神戸先生ご自身も現在、長崎大学熱帯伝染病研究所の博士課程に在籍し、眠り病を中心とする感染症の研究にも携わっておられるので、今後の成果も期待されるようです。

凡そ以上のような内容のご講演をいただいた後、参加者からの積極的な質問にお答えいただき、一連の勉強会は一先ず終了となりました。



会場の様子



質疑応答の様子

その後、せっかくの交流の機会ということで、参加者一人一人から自己紹介をいただきました。今回の参加者はほぼ獣医師の方々ばかりでしたが、お話しを伺ってみると、青年海外協力隊でアフリカ滞在の経験がある方が複数おられたり、また、スタディーツアー等で神戸先生を訪ねてケニアに出向いたり、さすがに意欲や経験の豊富な方が多くおられました。また、約半数の方には、場所を移した懇親会にもご参加いただき、神戸先生や関係の先生方と様々な意見交換が行われた模様で、それぞれに充実した時間を過ごしていただけたのではないかと思います。



懇親会の様子

最後になりましたが、今回の勉強会のために貴重な時間を割いていただきました講師の神戸俊平先生、森田正治先生を始めとする発起人会の方々、会場を提供いただいた中央動物専門学校の関係各位、そして当日ご参加いただいたすべての参加者の方々に、改めて感謝の意を表したいと思います。皆様の今後のご活躍を、改めてご祈念いたします。

※神戸俊平先生の活動を支えるために「アフリカと神戸俊平友の会」へのご協力をお願いいたします。詳しくはホームページ (<http://www.s-kambevet.org>) をご覧ください。

ウトウの幼鳥の救護事例

猛禽類医学研究所 武良 千里南

今年の8月、研究所にビニール袋に入れられて珍客が運び込まれました。中を覗くとなにやら砂まみれの物体が…黒く丸く小さな背中、短い嘴と白いお腹、嘴の基部にささやかな突起…さて一体誰でしょう？

正体はウトウの幼鳥。成鳥とは随分見た目が違うため、はじめは私たちも首をひねったのですが、嘴の突起が決め手となり、ウトウの幼鳥とわかりました。海岸でカラスに襲われていたところを発見され保護されました。初診時の様子では、軽度脱水が見られたほか、一般状態は悪くありませんでしたが、よく見ると右脚の付け根につつかれた跡と思われる穿孔があったため、洗浄し縫合を行いました。インキュベーターに入れしばらく様子を見たところ、翌日にはもう元気を取り戻し、餌を催促するようにピーピー鳴く様子が見られました



ウトウの巣立ちには、海鳥の例にもれずかなり早い段階で行われますが、センターに運ばれた個体は体重が 177.2g と、目立って小さいように思われました。巣立ち雛であれば傷が治れば放鳥できますが、巣立ち前となると放鳥しても生きていけません。詳しい方にお聞きした結果、通常の巣立ち雛の半分の体重であることがわかりました。何らかの原因で巣立ち前に巣穴を出してしまったようです。もう少し体重を増やしてから放鳥する必要があるため、しばらく飼育することになりました。

水鳥類の飼育管理は難しく、その一つに呼吸器感染の問題が挙げられます。外洋を飛翔する海鳥類は特に呼吸器系が弱く、常在菌によって容易に感染症を発症します。今回も感染予防のため、すぐに通気性の悪いインキュベーターからキャリーケージに移動して飼育しました。呼吸器感染予防のほかに、褥瘡の発生にも注意しなくてはなりません。ウトウのようにほとんど陸上に上がらない種では、床上での生活では、すぐに足裏や胸などに褥瘡を作ってしまいます。予防策としてハンモックや子供用プールなどが用いられますが、今回は足に傷があったため水には浮かべず、ジップロックに水を入れ、それをキャリーケージに敷き詰めて飼育しました。この個体は怪我の程度が軽かったこともあり、自由に動き回ることができたため、リリースまでの飼育期間、褥瘡を患うことはありませんでした。

飼育環境の問題と同時に、個体管理において頭を悩ませるのが給餌の問題です。種によってはストレスや警戒心から全く食べてくれないことも多くあります。採餌の仕方や餌の状態も、当然ですがまちまちです。水中に潜って餌を捕まえるもの、水面に浮いてきた小魚やプランクトンをすくって食べるもの、丸呑みにするもの、ちぎって餌を食べるもの、生きたものしか食べないもの、死ん



だ状態でも食べるもの…。そのため、そもそも餌を認識してくれないことも良くあります。犬猫のように、お皿に入れて差し出せば食べてくれるというようなものではありません。野外復帰を最終ゴールに管理するという事は、当然本来の状態に近い採餌環境を用意すべきですが、場所やコストを考えると限界があるのも事実です。そんなこんなで飼育中の給餌は常に戦いなのですが、今回のウトウの幼鳥はありがたいことに、この給餌問題をあっさりとクリアしてくれました。シマフクロウ用に池に放していたニジマス

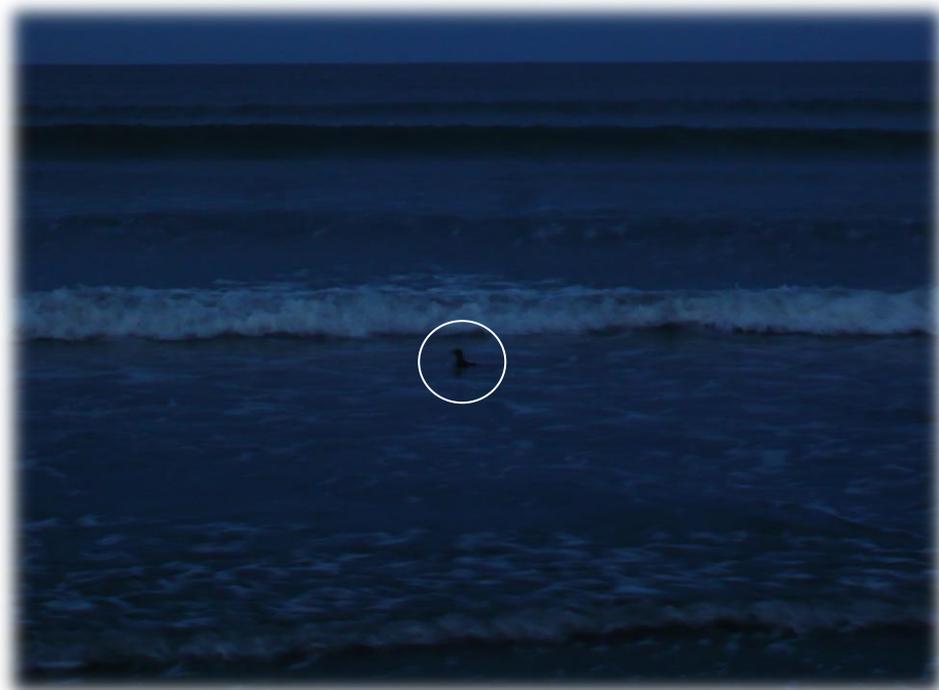
を与えることにしたのですが、幼鳥であるということも関係したのでしょうか、塩水にひたした切り身をお皿ごと差し出すと、あっさり食べてくれました。それ以前に収容されたシロエリオオハムやサンカノゴイ、コアホウドリらが皆揃って強制給餌を必要としたため、このウトウの喰いつきの良さには軽い感動すら覚えました。

今回の飼育管理で非常に面白かったのが、時間の経過とともにウトウの人に対する態度に変化が見られた点です。通常であれば、飼育の長さ按比例して多少なりとも人馴れが起きます。幼鳥であればそれはなおさら顕著であり、野外リリース時の大きな障害になることもあります。しかし、今回は通常とは逆でした。収容初期はほとんど警戒心を見せず、人を見ると餌をねだるようにピーピーと鳴き、平気で手から餌を受け取りました。しかししばらくすると、捕獲の際に威嚇を行ったり、餌を差し入れた手に対して攻撃を加えたり、人を見ると逃げ出したりするようになりました。リリースまでの期間、それは日に日に濃くなりました。心なしか顔つきもきりりとしはじめ、このように警戒心が増していく様子を見ると、野生個体に備わった本能というのは優れたものだなあと感嘆せずにはいられませんでした。



脚の付け根の縫合創は1週間ほどきれいに塞がったため、その後はリリースに向けて毎日20分ほど水に浮かべ、羽繕いをさせて浮力を維持するなどしました。収容2週間目には、野外にある広いプールですいすい泳ぐこともできるようになりました。問題は、放鳥できるような体重まで増えるかどうかだったのですが…。ウトウの巣立ちは遅くても8月下旬までといわれています。この鳥は、巣立ち雛の体重にかなりばらつきのある種で、平均は300gから400g。しかし収容個体は9月半ばで、まだ体重が250g前後…海水温がぐんぐん下がっていくこの時期の北海道の海で、これでは生きていけません。仲間が南下してしまう前に何とか放鳥を…！という我々の気持ちが通じたのか、後半に素晴らしい追い上げを見せて、何とか9月末には体重が310gに乗りました。

放鳥は、本来の巣立ち同様暗くなってから行いました。カモメやカラスなどの天敵がいない場所を選び放鳥しました。2か月近くケージに収容されていたのにも関わらず、荒い波をものともせずぐんぐん沖に泳いでいきました。こうして収容から1か月半あまりかかったウトウのリリースが完了しました。



無事にリリースすることはできたのですが、今回の収容では大きな課題も残りました。それはこの個体が誤認救護によるものであったという点です。今回のウトウの雛は、何らかの原因で通常よりも早く巣立ちをしてしまい、うまく身を守れなかったためにカモメやカラスに襲われたと思われました。野生下では一定数がそのようにして死んでいくのが通常です。本来淘汰されるべき個体を、人間の介入で助けてしまうことは、生態系のバランスを崩すことにつながるかもしれません。しかし、このような誤認救護の線引きは非常に難しいものでもあります。私自身は、人間活動が関与しない野生下の生き死にに手を出してしまった場合、それを誤認救護と考えていますが、しかしそもそも人間活動が自然環境をハイスピードで侵食している現状において、人間活動が及ばない野生下での生き死に、というのは判断が難しくなっています。今回のウトウの雛も、巣立ちを早めた原因は何らかの人間活動に起因している可能性は大いにあります。誤認救護の判断にグレーゾーンが多くあるこのような現状で、鳥の生態や生態系の仕組みに詳しくない一般の方々が、誤認救護を判断するのは困難なことかもしれません。ではこの問題に関して私たちにできることは何でしょうか。それは、運び込まれたで現場毎に、各ケースについてきちんと収容者に話をしていくことなのではないかと思います。今回のウトウの収容に関しては、それをすることができませんでした。収容後、すぐに個体の状態を判断するのは難しいですし、誤認救護か否かの見極めは更に難しいものであると思います。診断が終わるまで待っている収容者は少ないですし、我々においても治療や診断に時間がかかりそうであれば帰っていただくことが多くあります。その結果、収容者は救護の背景を理解することなく救護個体との関係を終わらせることになります。これでは収容者が行った救護という行為からは何も生まれません。

野生動物救護の本質は、救護個体からその個体のみならず、その背後で起きている問題を読み取って、多くの命に還元していく点にあると思います。誤認救護の判断をひとくくりにするのは難しくても、一例ごとに収容原因を考え、どうすることが最良であったか、あるいはどうすべきでなかったかを考えることはできます。そしてそれは一時収容者となる一般の方々にも一緒に考えてもらうべき部分です。誤認救護を少しでも減らし、一つ一つの“救護“という行為が意味のあるものになるためには、治療やリリースだけではなく、伝える、考えるという部分も同じ重みをもって行われるべきではないでしょうか。救護の現場に求められる、あるべき姿を改めて考えさせられた一症例でした。

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

獣医師 山田 智子（やまだ のりこ）

【はじめに】

北の玄関口である新千歳空港から車で約15分。ラムサール条約湿地として国内で4番目に登録されたウトナイ湖のほとりに、ウトナイ湖野生鳥獣保護センター（以下、当センター）があります。

この施設では、毎年130～150個体の傷病鳥獣が運びこまれ、治療やリハビリを行っています。北海道内では数少ない傷病鳥獣救護施設である当センターを紹介させていただきたいと思います。

【概要】

2002年、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区が、将来にわたり鳥獣の良好な生息地として保存され、また、人と野生生物との共生が図れるよう、環境省の「野生鳥獣との共生環境整備事業」の国内第1号として設立されました。

当センターはビジターセンター的機能を有し、ウトナイ湖の生態系や渡り鳥などの営みの解説や、自然や野生鳥獣との適正なふれあいを図る普及啓発を行うとともに、鳥獣保護区周辺における傷病鳥獣の収容やリハビリ等を行っています。



【センター外観（長島順子氏撮影）】

～ 傷病鳥獣救護業務 ～

当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）における傷病鳥獣の救護を行っています。開設以来この10年間で1600個体（173種）を超える傷病鳥獣が運ばれてきました。

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 《傷病鳥獣の内訳》 | 鳥類98%（陸鳥81%、水鳥17%）、哺乳類2% |
| 《保護原因》 | 人工物への衝突（窓ガラス、壁、車、電線等） 65% |
| | 他動物による襲撃（カラス、ネコ等） 8% |
| | 誤認保護 3% |
| | その他（釣り針・釣り糸誤飲事故、網絡、ネズミ捕り等） 18% |
| | 原因不明 6% |



【傷病鳥獣治療室（長島順子氏撮影）】



【屋外リハビリゲージ（長島順子氏撮影）】

《傷病鳥の紹介》

当センターに搬入される傷病鳥獣種は年間70種ほど。本年度収容された傷病鳥を紹介します。



オオコノハズ

2013.9.5 搬入、左大腿骨骨折
2013.9.28 リリース



オオバン

2013.10.8 搬入、右肩部打撲
2013.10.17 リリース



オオタカ

2013.9.5 搬入
左上腕骨・左大腿骨骨折
2013.11.1 現在飛翔訓練中
(強制給餌中・長島順子氏撮影)

ヨタカ

2012.9.18 搬入 左手根骨骨折
2013.11.1 現在経過観察中
(強制給餌中・長島順子氏撮影)



～ 普及啓発・環境教育 ～

当センターでは、傷病鳥獣の救護活動の一環として、普及啓発にも力を入れております。その代表的な活動として2009年から苫小牧市内の小学生を対象に出張授業“いのちの授業”を開始し、これまで実施した授業数約100回、2700人以上の子どもたちが参加をしてくれました。また、2012年からは地元紙に連載“救護室のカルテから”を設けていただき、市民の方々に情報発信を行っています。また、救護講習会等の企画・実施、ボランティアや研修生受け入れ、地域の活動参加など、可能な限り発信活動を行っています。

【おわりに】

今回、このような施設紹介のきっかけをいただいたWRV長島順子さま、鈴木麻衣さま、箕輪多津男さま、心より感謝しております。会員みなさまも機会がありましたら、どうぞウトナイ湖野生鳥獣保護センターまでお立ち寄りいただければと思います。

＜野生動物リハビリテーター養成講習会(東京会場)募集要項＞

主催：NPO 法人野生動物救護獣医師協会神奈川支部

共催：NPO 法人野生動物救護獣医師協会(WRV)

協力：学校法人東京環境工科専門学校

NPO 法人野生動物救護獣医師協会(WRV)神奈川支部は、傷ついた野生動物を野生復帰させる活動を通して、自然のしくみを理解し、野生動物の声を代弁する役割の担い手を野生動物リハビリテーターと呼び、野生動物リハビリテーター制度を創設し、神奈川県民を対象に養成、認定事業を実施しています。

ところが、制度創設当初から神奈川県外の市民から受講希望が強く、このたび神奈川県外の市民を対象に同様の講習会を実施することにいたしました。

※2 日間の座学のみ開講。実習（実践活動）は実施しません。したがって、野生動物リハビリテーターとして資格認定するものではありません。なお、希望者には修了証を発行します。

●受講対象者：野生動物の保護に関心があり、18 歳以上（高校生不可）で講習会に全日程受講可能な方。

※神奈川県民も受講可ですが、県での認定制度とは連動しておりません。

●募集人員：50 名（応募多数の場合は抽選）

●日 時：平成 26 年 2 月 22 日（土）・23 日（日） 10：00～16：30（両日とも）

●会 場：東京環境工科専門学校（東京都墨田区江東橋 3-3-7）

●内 容：（1）野生動物救護の目的と野生動物リハビリテーターの役割
（2）日本における救護の現状（関連法規を含む）
（3）野鳥種の特徴と見分け方（生態を含む）
（4）野鳥の解剖と生理（身体の構造と特徴）
（5）野鳥のファーストエイド、ケア、リハビリテーション、リリース
（6）衛生管理と感染予防（共通感染症を含む）

●受講料：5,000 円 他にテキスト代 1,500 円が必要です。

受講決定者には受講決定通知とともに郵便振込用紙を同封しますのでお振込みください。

●特典（希望者のみ）：NPO 法人野生動物救護獣医師協会（WRV）会長名の修了証が授与される

※全日程出席が必須 ※発行手数料：1,000 円が必要（WRV 会員は無料）

●申込方法：受講希望者は、WRV 神奈川支部のHPより受講申込書をダウンロードしてください（アドレスは下記参照）。または FAX や e-mail で、タイトルに「リハビリテーター受講申込書希望」、通信欄に郵便番号、住所、氏名を明記の上ご連絡ください。申込書類一式を郵送します。

平成 25 年 12 月 9 日（月）～平成 26 年 1 月 8 日（水）（消印有効）までに WRV 神奈川支部へ郵送にて提出してください。申込みが定員を上回った場合には抽選とさせていただきます。受講（抽選）の結果は平成 26 年 1 月 22 日（水）までに全員に通知します。

●問合せ・申込先：特定非営利活動法人野生動物救護獣医師協会神奈川支部（WRV 神奈川支部）

〒211-0042 川崎市中原区下新城 2-1-28 野生動物ボランティアセンター内

TEL：044-777-8243 FAX：044-777-8368

e-mail：kanagawa@wrvj.org http://www.wrv-kanagawa.jp/

● 冬は野鳥観察の季節 ●

いよいよ冬本番となってきましたが、今は一年の中でも、野鳥観察に出掛けるには最も適した季節ということが出来ます。というのも、冬は青々と茂っていた広葉樹の葉が落ち、また鬱蒼と茂っていた草々も枯れ、大変見晴らしがよくなるため、素早く動き回る小鳥たちを観察しやすくなるからです。一方で、カモの仲間やカモメの仲間、あるいはツグミやアトリ(ヒワ)の仲間を始め、多くの冬鳥が日本を訪れることもあり、地域の様々な場所を観察の拠点とすることができるようになります。

特に、冬場に目立つカモやカモメ、サギなど、大型の野鳥は動きがゆったりとしていることもあり、その姿や行動をじっくり観察することが出来ます。また、最近はおオタカやオオコノハズクといった猛禽類も、冬になると公園の緑地や郊外の比較的身近な場所で観察できることが増えてきているようですので、彼らの姿を求めてみるのも一興でしょう。

また冬場には、夏には見る事ができなかった小鳥たちの混群の姿を見られるようになります。混群というのは、様々な種の野鳥が同じ群れを形成して、移動や採餌を行う様子のことを言いますが、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、コガラ、ヒガラ、そしてキツツキの仲間であるコゲラなども加わり、一群となって通り過ぎていく姿は見応えがあります。場所によってはさらに、キクイタダキやゴジュウカラなどがこれに加わることもあります。

冬は寒さが厳しい季節ですが、十分な備えをしつつ是非フィールドに出掛け、時に救護の対象となる可能性もある野鳥たちの、普段の姿をじっくりと観察することをお勧めいたします。(箕輪)



【 事務局より寄付のお礼 】

寄付ご協力者(敬称略) (平成25年9月1日から平成25年11月30日)

○以下・神奈川支部寄付金

| | | | |
|-------------------------|---------|----------------------|---------|
| 2013.9.23 川崎動物愛護フェスティバル | 4,000 円 | 2013.10.12 秋の動物園まつり | 3,640 円 |
| 2013.10.19 杉原隆宣 | 1,000 円 | 2013.10.20 森とせせらぎまつり | 1,400 円 |
| 2013.11.3 青葉区民まつり | 1,400 円 | | |

事務局日誌 2013.9.20～2013.12.18

=== 9月 ===

| | |
|--|------------------------|
| 20: WRV会計に関する打合せ(立川事務所) | 対応: 新妻、小森、箕輪 |
| 21: スマイリングフェア(高根森林公園パークセンター)[神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 22: 2013 しが動物フェスティバル(竜王町総合運動公園ほか) | 講師: 中津 |
| 22: 金沢文庫芸術祭(横浜市海の公園)[神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 22: 日獣大獣医学科野生動物実習(野生動物ボランティアセンター)[神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 23: 動物愛護推進員研修会(上野平会館) | 出席: 新妻 |
| 23: 川崎動物愛護フェスティバル(JR川崎駅アゼリア)[神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 25: WRV ニュースレターNo.86 発行 | |
| 27: 第15回日本臨床獣医学フォーラム年次大会(ホテルニューオータニ) | 出席: 新妻 |
| 28～29: 神奈川県野生動物リハビリテーター(2級)養成講習会[神奈川支部] | 対応: 馬場、皆川、大窪、梶ヶ谷、金坂、箕輪 |
| 29,10/10,14,11/17,24: ミゾゴイ(傷病個体)のガイド(野毛山動物園・ミゾゴイ展示場前)[神奈川支部] | 対応: 皆川 |

=== 10月 ===

| | |
|--|-----------|
| 01: 麻生区ふれあい公園(王禅寺ふるさと公園)[神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 02: 川崎市立中学生・体験学習(野生動物ボランティアセンター)[神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 05,06,12,13: 日獣大獣医学科野生動物実習(野生動物ボランティアセンター)[神奈川支部] | 対応: 皆川 |
| 07: 「アフリカの野生動物保護・獣医学勉強会」・会場事前打合せ(中央動物専門学校) | 対応: 箕輪 |
| 09,15,19,20,24,29: 神奈川県野生動物リハビリテーター養成講座(実践活動)[神奈川支部] | 対応: 馬場、皆川 |
| 11: 吉田元衆議院議員・激励会(ホテルカデンツア) | 出席: 新妻 |
| 12: 秋の動物園まつり(夢見ヶ崎動物公園)[神奈川支部] | 対応: 皆川 |

- 19: 金沢いきいきフェスタ (横浜市海の公園) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 19: 東京動物専門学校生・体験学習 (野生動物ボランティアセンター) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 20: 「アフリカの野生動物保護・獣医学勉強会」(中央動物専門学校) 対応: 神戸、森田、大窪、梶ヶ谷、箕輪
- 20: 森とせせらぎまつり (野生動物ボランティアセンター) [神奈川支部] 対応: 馬場、皆川
- 22~23: 第1回油等汚染事故対策水鳥救護研修 (水鳥救護研修センター) 対応: 中津、新妻、皆川、箕輪、鈴木、近江谷
- 26: 特定外来生物対策講習会 (横須賀合同庁舎) [神奈川支部] 出席: 皆川
- 27: 滋賀県野生動物リハビリテーター養成講座・第1回講習会 (滋賀県・湖北野鳥センター) [大阪支部] 対応: 中津
- 27: 麻布大学・大学祭 (麻布大学) 対応: 新妻
- 29: 生物多様性日本アワード授賞式 (国際連合大学) [神奈川支部] 出席: 皆川
- === 11月 ===
- 02: ヤマザキ学園大学絆祭 (ヤマザキ学園大学) 対応: 新妻
- 02~03: ジャパンバードフェスティバル (千葉県我孫子市) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 03: 青葉区民まつり (青葉区総合庁舎周辺) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 08: 柴崎都議会議員激励会 (ホテルカデンツア) 出席: 新妻
- 08: (公財) 東京都獣医師会 南多摩支部 学術講習会 (水鳥救護研修センター) 出席: 大窪
- 08,13,24,30: 神奈川県野生動物リハビリテーター養成講座 (実践活動) [神奈川支部] 対応: 馬場、皆川
- 09: 東京港野鳥公園・油汚染事故水鳥救護講習会 [東京都支部] 対応: 新妻、大窪、皆川、箕輪
- 11: 第17回わいわいサロン (かながわ県民サポートセンター) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 12: テレビ朝日取材「人の食べ物を狙うトビの被害の実態と原因は餌付け」[神奈川支部] 対応: 皆川
- 12: 特定外来生物対策講習会 (金沢動物園) [神奈川支部] 出席: 皆川
- 12: 「ヒナを拾わないで!!キャンペーン」 3団体担当者打合せ (日本鳥類保護連盟) 出席: 箕輪
- 14: かながわボランティア団体成長支援事業研修 (かながわ県民サポートセンター) [神奈川支部] 出席: 皆川
- 16: テキスト増刷に関する打合せ (立川事務所) 対応: 箕輪
- 16~17: 第34回動物臨床医学会年次大会 (グランキューブ大阪) 出席: 新妻
- 20: 特定外来生物対策講習会 (横須賀合同庁舎) [神奈川支部] 出席: 皆川
- 20: (公社) 日本獣医師会・会長激励会 (明治記念館) 出席: 新妻、須田
- 24: 滋賀県野生動物リハビリテーター養成講座・第2回講習会 (滋賀県・湖北野鳥センター) [大阪支部] 対応: 中津
- 28: WRV新規職員候補者 面接 (水鳥救護研修センター) 対応: 新妻、皆川、箕輪、鈴木
- 29: (公財) 東京都獣医師会 南多摩支部 学術講習会 (水鳥救護研修センター) 出席: 大窪
- 29: 地球環境基金創設20周年記念シンポジウム (東京国際フォーラム) 出席: 皆川
- === 12月 ===
- 01: シカカウント調査 (丹沢) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 01,07,15: 神奈川県野生動物リハビリテーター養成講座 (実践活動) [神奈川支部] 対応: 馬場、皆川
- 03: 傷病鳥獣保護連絡協議会 (横浜合同庁舎) [神奈川支部] 出席: 皆川
- 03~04: 第2回油等汚染事故対策水鳥救護研修 (水鳥救護研修センター) 対応: 中津、新妻、皆川、箕輪、鈴木、御厨、近江谷
- 06: (公財) 東京都獣医師会 南多摩支部 学術講習会 (水鳥救護研修センター) 出席: 大窪
- 06: 鳥インフルエンザ防疫システムの構築シンポジウム (大手町サンケイプラザ) 出席: 皆川
- 11: かながわボランティア団体成長支援事業研修 (かながわ県民サポートセンター) [神奈川支部] 出席: 皆川
- 11: 愛鳥懇話会 (日比谷松本楼) 出席: 新妻、箕輪
- 13: (公財) 東京都獣医師会 南多摩支部 学術講習会 (水鳥救護研修センター) 出席: 大窪
- 14: 野生動物救護獣医師協会 講習会 [東京都支部] (ホテルローズガーデン新宿) 出席: 梶ヶ谷、大窪、新妻、皆川、小松、倉林、小森、箕、鈴木、箕輪
- 14~15: 滋賀県野生動物リハビリテーター養成講座・第3回講習会 (滋賀県・湖北野鳥センター、大阪ペイピア動物専門学校) 出席: 皆川
- ※油汚染水鳥救護技術講習会 [大阪支部] 対応: 中津、箕輪

野生動物救護獣医師協会 (ホームページ) <http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 87 2013.12.25 発行

発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局: 〒190-0013 東京都立川市富士見町1-23-16 富士パークビル302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人: 新妻 勲夫 編集文責: 皆川 康雄